

◎ ブルセラ属 Genus Brucella

zoonosis
細胞内寄生菌

輸入感染症

人獣共通感染症

Brucella melitensis

【ヤギ】^強

バイオテロ

Brucella abortus

【ウシ】

5人/年

Brucella suis

【ブタ】

Brucella canis

【イヌ】 (日本のイヌの2%が抗体陽性)

国内例あり

Brucella Free (日本)

分類学的には単一菌種で、B. melitensis に統一されている。

臨床的には従来の菌種名を使用するが多い。

偏性好気性。培養困難。診断困難。

感染源は通常、ヤギ生乳、チーズ等の摂食による。

〔病態〕

午後に発熱し、夜間から早朝にかけて発汗とともに解熱を繰り返す波状熱 (マルタ熱、地中海熱) がある。〔体重減少〕減少などがみられる。

〔治療〕

WHO 推奨 リファンピシン と ドキシサイクリン 併用療法

または ストレプトマイシン と テトラサイクリン 併用療法

の6週間投与 ← 解熱後も

◎ フランシセラ属 Genus Francisella

大原八郎

培養困難・染色困難

○ 野兎病菌 Francisella tularensis

細胞内寄生菌

1991年
以来ない。
偏性好気性。

Sub. sp. tularensis 北米

致死率 5%

ウサギ等の野生の哺乳類が保菌。

Sub. sp. holarctica 日本、ユーラシア 致死率 1%未満

ヒトへの感染は … 93% が野ウサギとの接触

マダニを介して

戦中・戦後
狸肝

1935年
鳥の大量死あり

〔病態〕

2cm以上になる(80%)

野兎病の 75-85% は経皮的感染。

皮フに傷口がなくても感染

丘疹が現れ、所属リンパ節炎、そして菌血症に到る。

全身症状は発熱、頭痛、倦怠感、肝・脾の肥大。

無治療だと症状の改善に3ヶ月を要する。

肺型野兎病は致命率が高い。

90% 以上がリンパ節腫脹を伴い、下記の2つの型がある。

- 潰瘍性リンパ節型 ulceroglandular tularemia
- リンパ節型 glandular tularemia

ペスト
猫ひっかき病
野兎病 } リンパ節が
ゴルフボール大に腫れる

〔治療〕

streptomycin (または gentamicin) + tetracycline (または minocycline) 2週間、症状が残れば、さらに tetracycline を半量にして1ヶ月から2ヶ月。

penicillin } 無効
セフェム